

わの川だより

わの川だより 第14号

発行日：平成22年3月31日

「わの川との関わりを振り返って」

青森県県土整備部河川砂防課長
阿部 晴生

「わ(私)」のこれまで約57年の川(水)との関わり、真水と塩水、きれいな水と汚い水、水の種類は多少異なるにせよずっと水商売に関わってきたが、やはりそのはじまりであり心に残るといえば、生まれ故郷を流れる浅瀬石川ではないだろうか。

残念ながら平成の大合併から漏れた私の出どころである「田舎館村」は、津軽平野の南部に位置し、縄文や弥生時代の遺跡が数多く確認される古の都会(?)であるが、取り

立てて特徴はなく、現在では一部のマニアの方に「田んぼアート」で知られている程度である。村のほとんどが水田と畑からなり、そのほぼ真ん中を浅瀬石川が流れている。名は体を表すのとおり、役場のある集落名は「田舎館」といい、その他の主な集落名も「畑中」(「はたけなか」と呼ぶ:我が集落でもある)「八反田」^{はったんだ}「前田屋敷」「枝川」「十二川原」等と、浅瀬石川の恵みに起因としての地名が多いことが、別の意味から特徴といえるのかもしれない。

古来から、浅瀬石川の恵みを受けてきた地域であるが、一方では「黒石市史」等に記述があるように、洪水被害や水争いも頻繁にあったようである。事実、昭和30年代、私の小学校時代のことであるが、辺り一面濁水で湖のようになった田んぼを小高いところから見ていた記憶が今も残っている。また、水が引いた後の浅瀬石川の左右



岸にあった畑は、氾濫土砂でぬかるみ収穫間近の野菜等は見るも無惨な姿で横たわっていたものである。

しかし、この様な悪い記憶ばかりではない。いや、楽しい記憶の方が多いためである。海が無いことから、水遊び等は専ら堰や農業

用水路、そして浅瀬石川であった。水路に竹で一升瓶の形に編んだ罾を仕掛けてはドジョウを捕り、それを親父に渡しては小遣いを稼いだり家で飼っていた鶏の餌にしたり。鶏の餌といえば、葉を取った小枝を小さな釣り竿がわりに「カラス貝」を取ったりしたものだ。そして夏休みともなれば、浅瀬石川の川原は子ども達の天国だったように思う。泳いだり潜ったりする奴もいれば、川面に平べったい石を投げては水面に出る回数を競ったり。河床礫を積み連ねた罾に「オイカワ」や「ハイジャッコ」、

「カジカ」等を追い込んで手づかみしたり。コンクリートの開いた目地に手を突っ込んだり枝を突っ込んでカニ等をとったり。腹が空き始めたら、各人の家の畑や心の中でことわっては親戚の畑から材料を調達するのである。廻りには、「早出のリング」、「スイカ」や「マガア=マクワウリ」、「キミ=とうもろこし」もあれば「新ジャガ」もあり、昼食やおやつに食材に不自由することはなかった。また、川魚を焼く串がわりから、燃料となる乾いた流木にいたるまで、現地調達が出来たのである。

目次:

「わの川との関わりを振り返って」	P1 P2
平成21年度活動報告 サークル「母なる川」	P3
平成21年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P3
平成21年度活動報告 堤川を愛する会	P4
平成21年度活動報告 親しめる川づくりサークル	〃
田名部川源流の地探訪 会	〃
薦川清掃活動	P5
イワナ産卵床づくり	〃
小嵐山黒石温泉郷 フォーラム	〃
河川文化講演会	P6
平成22年度あおもりの川 を愛する会総会のご案内	〃
事務局より	〃

ハイライト:

- ・平成の大合併から漏れた「田舎館村」! (P1)
- ・鉄製のアーチ橋は世界最長 (P3)
- ・小学校児童による「イワナの里づくり体験学習」(P5)

「ヨシキリ」、「野バト」等の鳴き声や水の音を聞きながら、そして新鮮な食材をほおばりながらのガキ連合の団欒。それらが、懐かしく思い出される。

話はちょっと変わるが、浅瀬石川の恵みというかまつわる逸話を、皆さんに紹介したいと思います。

岩手県の宮古市を流れる河川に、「津軽石川」という川があります。弘前市内にある駅名ではありません。この川の名前の由来は、元亀・天正の頃(1570年代、概ね織田信長・豊臣秀吉が活躍した時代)、青森県の津軽、黒石の浅瀬石川ではサケがたくさん遡上するので、その御神石を分けて譲り受けたところ、秋になると川からはみ出るばかりの鮭の大群が来るようになり、やがて南部一の鮭川漁場になったとのこと。そこで津軽から移した奇石のお陰と、それまでの丸長川から津軽の石の川という意味で、「津軽石川」と呼ぶようになったと地元では言われているそうです。

浅瀬石川とサケ、どうもピンときません。実のところ私は、これまで浅瀬石川にサケが遡上したという話を聞いたことがないのです。この話を知ってから、ちょっと調べてみようかと思っっているのですがサボってばかりです。誰がご存じの方がいらっしやれば、情報提供していただければ助かります。でも嬉しい話ですよ。また復活させたいものです。

浅瀬石川では、昭和40年代においても水害がありましたが、皆さん多くの方がご存知のように、代表的な洪水と言えば昭和50年8月と昭和52年8月があげられると思います。取りわけ昭和50年8月20日の台風5号崩れの熱帯低気圧による集中豪雨では、平川・浅瀬石川・土淵川等、各地で氾濫、災害救助法が適用されるほど未曾有の災害に見舞われました。私のふるさと一面泥の海と化したのです。勿論、実家の畑も泥の海でした。何の因縁かは知りませんが、この年に新採用で当時の河川課に所属していた私も、災害復旧の応援隊、水計算チームの下っ端として参加し、各地の惨状を目の当たりにしたものです。浅瀬石川の治水対策としては、既に浅瀬石川ダムが直轄事業として建設が進められていたこともあり、岩木川の工実施基本計画に整合するかたちで河道の整備を「浅瀬石川災害復旧助成事業」で実施することになりました。亡くなった父親も、普通作業員として雇われ浅瀬石川の復旧工事等の手伝いをしたようです。昭和54年度には浅瀬石川災害復旧助成事業が、そして昭和63年10月には浅瀬石川ダムの竣工をむかえ、その後、浅瀬石川での水害や利水面での障害は発生していません。長年にわたる多くの方々の協力、そして努力の賜であり、わがふるさとは今その恩恵を享受しているものです。「あおもりの川を愛する会」の会員の皆様にも、大変お世話になっているもので、村民に成り代わり深く御礼申し上げます。

さて、仕事として川にたずさわるようになってから約35年、その内容は大きく変わってきました。今また、「コンクリートから人へと」激動の渦の中です。国や県は勿論、社会全体がいろいろな面で厳しい時代が続きますが、地域の方々と一緒に、また協力をいただきながら川の管理や整備を着実にやっていくことが大切だと考えています。

最後になりますが、会員の皆様のこれまで以上の暖かいご支援を、「あおもりの川を愛する会」、そして県内の川づくり等にお寄せいただきますよう宜しくお願い致します。



● サークル「母なる川」 平成21年度活動報告

サークルリーダー 和島 隆志

<平成22年2月16～18日 於：中国江蘇省>

サークル「母なる川」では2009年度の活動として、本年2月、中国の「黄浦江」と「銭塘江」を視察して来ました。

「黄浦江」は中国江蘇省太湖を水源とする長さ約110km、平均川幅約500mの河川で、上海市内を流れ、下流で長江に合流し東シナ海に注いでいる。長江の最後の支流となるこの川は平均水深が12mと天然の良港になっている。

川は上海市街を二分する形で蛇行している。もともと川の東側は交通が不便な農村地であったが、次々と橋が架けられたのをきっかけに開発が始まり、浦東新区と位置付けられ、わずか数十年という超ハイスピードで上海の経済をリードするまでになったそうで、橋というインフラ整備の効果が如実に見てとれました。

現在では観光名所「バンド」の上下流に4本の大きな橋が架けられ、中でも盧浦大橋はアーチ部分の長さ550mで鉄製のアーチ橋としては支柱間距離が世界最長だそうです。また、バンドに面した河川部分には橋ではなく、自動車用のトンネルが4本掘られていて景観の妨げにならないように配慮されています。

人口約2000万の飲用水の水源として、物流の要所、観光資源としての勢いが感じられた河川でした。

「銭塘江」は仙霞嶺（せんかれい）山脈を水源とする長さ約680kmの河川で、中国浙江省を流れ、杭州湾に注いでいる。

毎年、旧暦の8月18日前後に見られる大潮による海水の逆流現象（海嘯）は南米アマゾン川と並び有名です。この逆流現象は河口の形状（ラッパ状）と潮の干満に起因すると言われていますが、原因が分からなかった昔は人々に恐れられていたようで、銭塘江が流れる杭州市内には、逆流を鎮めるために建立された六和塔がある。

また、市街地には大小様々な運河があり、人々の暮らしに密接に関わっていることが窺えます。

河口に近いこともあり、川幅も約1500m。対岸が霞んで見えるほどの川面に悠久の時間が感じられた視察でした。



● ジョイリバーおいらせ 平成21年度活動報告

サークルリーダー 中野渡 悟

<平成21年8月1日（土） 於：十和田湖畔>

2009年度は、十和田湖の宇樽部キャンプ場を管理するノースビレッジの協力をいただいて8月1日（土）に十和田湖畔でカヌー体験を実施しました。当日は、昨年の小雨とは打って変わり、穏やかな晴天に恵まれ絶好のカヌー日和となりました。

カヌーは、常日頃使っているラフティングボートと違い転覆の危険等もあることから最初は、専門のインストラクターの指導を熱心に聞きいていましたが、だんだんとコツをつかんで来ると交替時間を過ぎても戻ってこない親子連れ船員が続出して予定の時間をオーバーしてしまう程の盛況ぶりでした。

また、お昼にふるまわれたトン汁は、各自が持参のおにぎりにピッタリ、遊んだ後の腹ペコの子供達は、元気にお代わりをたくさん食べてくれてこちらも大好評でした。最近では、川や湖で遊ぶことの少なくなったこともあり「また参加したい」という意見が多く出され、十和田湖畔の水遊びを満喫した一日となりました。ご協力いただいた皆さん本当にありがとうございました。（参加者：子供会やおいらせ知の会等合 わせて約50名）



●堤川を愛する会 平成21年度活動報告

サークルリーダー 河津 幸治

＜平成21年5月23日（土） 於：横内川集水区域内＞

堤川を愛する会では平成21年度の事業活動としては、毎年恒例となった横内川集水区域内への「植樹」を5月に行いました。植樹当日は快晴で、横内浄水場に集合し、植樹を行う現地まで歩き、植樹を行ったのですが、とても清々しくいい汗を流すことができました。この植樹事業ですが、青森市が中心となり平成4年度から横内浄水場の「安全で良質なおいしい水」を守り、育ててくために行われてきました。平成21年度までの18年間で延べ46.5ヘクタールに174,000本のブナ、ミズナラ等広葉樹を植樹し、今年度（21年度）で植樹完了となりました。次年度（平成22年度）からは新たに天田内地区において、地下水取水井周辺の環境保全を目的とした植樹を実施するそうです。堤川を愛する会としても、是非取り組みたいと思います。



●親しめる川づくりサークル 平成21年度活動報告

サークルリーダー 南 直之進

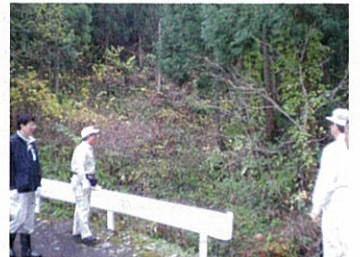
＜平成21年11月6日（水） 於：土淵川源流＞

今年の活動としては、残念ながら毎年行っていた「土淵川せせらぎフェスタ」が諸事情により行うことが出来ませんでした。その他の活動としては、昨年11月6日に、土淵川の源流碑を建立するための事前現地調査を行いました。

当日は快晴のなか、水木幹事と中南地域県民局地域整備部の方々と久渡寺から座頭石の林道に向かい、地図を片手に土淵川の源流に入りました。上流、上流へと歩き、何箇所か候補地を見つけましたので、春ころには源流碑の建立を行う予定です。参加できる方はよろしくお願ひします。



建立場所探索



出発前集合撮影



標柱建立の様子



●平成21年度 「田名部川源流の地」探訪会

あもりの川を愛する会 事務局

＜平成21年7月8日（水） 於：田名部川源流＞

当日の朝は、大雨洪水警報が出るほど雨がどしゃぶり状態でした。建立事態が川の近くという事もあり、参加者から確認の問い合わせが数件ありました。

しかし、集合場所の下北郡東通村役場前に昼ごろ到着したところ、午前中の雨が嘘のように雨雲は無く、晴れ間が覗き天候が回復！予定通り源流の地へ出発し、本川上流の水源かん養保安林に標柱を建立しました。（参加者18名）

●平成21年度 蔦川（つたがわ）清掃活動

あおもりの川を愛する会 事務局

＜平成21年9月5日（土） 於：奥入瀬溪流・蔦川周辺＞

第7回目となります十和田湖焼山の蔦川周辺の清掃活動を行いました。県の関係者・会員ほか約90名参加されごみ拾いを行いました。



ゴミ拾いの様子

●イワナ産卵床づくり「イワナの里づくり体験学習」

あおもりの川を愛する会 事務局

＜平成21年10月7日（水） 於：奥入瀬溪流・蔦川＞



スコップを持って作業

青森県産業技術センター内水面研究所・奥入瀬川漁業協同組合協力のもと、十和田市を流れる奥入瀬川支流の蔦川で十和田市立法奥小学校の児童（21名）と「イワナの里づくり体験学習」と称しイワナの産卵床づくりをおこないました。また、体験学習の内容を小冊子にして地域の小学校に配付しました。（河川整備基金助成事業）



産卵床完成

●中野川と紅葉「小嵐山黒石温泉郷フォーラム」

あおもりの川を愛する会 事務局

＜平成21年10月17日（土） 於：津軽伝承工芸館（黒石市）＞

フォーラムでは、佐々木会長がコーディネーターとなり、鳴海黒石市長や黒石温泉郷活性協議会丹羽会長らが、黒石温泉郷を流れる中野川などを題材に意見を交わしました。終了後、大木かつ恵様による箏の演奏会を開催いたしました。演奏会の曲目は秋の紅葉山にふさわしいテーマ「紅葉山燃ゆる想いを箏の音にこめて」で演奏され参加者 約300名は熱心に聴いていました。



フォーラム



記念撮影



箏の演奏会



●平成21年度 河川文化講演会

あおもりの川を愛する会 事務局



高橋真理子理事

平成21年5月23日青森県男女共同参画センター「アピオあもり」において21年度の総会を開催しました。総会においては日本河川協会 高橋万里子理事よりご挨拶をいただきました。総会終了後、佐々木幹夫会長による河川文化講演会「河川の構造と機能」を開催しております。



講演会

●平成22年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会 事務局



平成22年度の総会を5月29日(土)に予定しております。総会後には、講演会の開催も予定しております。詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は今年で12年目を迎えました。会員数は現在250名と年々減少傾向にあります。しかし、今年度も、さまざまな活動を行なうことができました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

【事務局】 〒030-0111
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL:017-729-0922
FAX:017-739-3561
E-mail:kon-h@nishidagumi.co.jp